

報道各社御中 ← 環境省広報室

茨城県での高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う野鳥緊急
調査チームによる調査の結果について
(H28.12.16 22:00)

茨城県水戸市において11月29日に回収されたオオハクチョウから高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたことを受けて、12月13日(火)～16日(金)に野鳥緊急調査チームを現地に派遣し、現地の野鳥の生息状況などの調査を実施しましたので、以下のとおり結果をお知らせします。

1 調査結果

12月13日～16日にかけて、茨城県水戸市の発生地点周辺半径10km圏内の野鳥監視重点区域内を中心とした渡り鳥の飛来地等の計9地点(1地点は10キロ圏外)において生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施。調査チーム派遣期間内に、10km圏内において回収された死亡個体は、現在確定検査機関、遺伝子検査機関にて検査中である。なお、過去に放鳥され、給餌されているコブハクチョウについて、14羽の死亡が確認されている。

(参考)

- 観察された鳥類 55種
- うち、リスク種1 5種(オオハクチョウ、コブハクチョウ、キンクロハジロ等)
- リスク種2 9種(マガモ、オナガガモ、スズガモ等)
- リスク種3 14種(カルガモ、ヒドリガモ、コガモ等)

○茨城県により回収(13日～16日)された検査中の死亡個体
3種(16体)

- うち、リスク種1 コブハクチョウ 14体
- リスク種1 オオハクチョウ 1体
- リスク種2 ユリカモメ 1体

*本調査結果は暫定値です。

*リスク種とは:「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」において、感染して死亡しやすい種を中心に設定

2 今後の対応

野鳥監視重点区域において、茨城県と連携し、引き続き野鳥の監視を実施。

※ 環境省はホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/)

平成28年12月16日(金)

自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

直 通：03-5521-8285

代 表：03-3581-3351

企 画 官：東岡 礼治 (内線6475)

鳥獣専門官：根上 泰子 (内線6676)

関東地方環境事務所野生生物課

直 通：048-600-0817

課 長：澤 邦之

広域鳥獣保護管理専門官：鈴木 真野